

つぎの
快適を
つくろう。

快適とは、なにか。
それは、
ココロとカラダが望むものすべて。
そこには、
私たちの未来がある。
今までの常識に捉われず。
培ってきた技術と経験を注ぎ。
考えよう。追究しよう。開発しよう。
さあ、つぎの快適をつくろう。

CORONA

株式会社 **コロナ** 本社 / 〒955-8510 新潟県三条市東新保7-7
<https://www.corona.co.jp/>

8月7日 機械の日

「機械遺産」認定式 23日開催

機械技術者―役割明確に

日本機械学会(JSME)は8月7日を「機械の日」、8月1日から7日までの1週間を「機械週間(メカウィーク)」と、2006年に制定した。機械技術が社会や産業の健全な発展にどう役立つかを広く社会とともに考察し、併せて機械技術者の果たす役割を明確にすることで、社会から一層の理解を得るのが目的。機械の日や機械週間に合わせて、子ども・学生向けイベントや「機械遺産」の認定式などが行われる。

8月7日は七夕の中暦である。七夕は中国の儀式「乞巧奠」に由来し、奈良時代、日本に伝来した。「たなばた」の読みはこの日に神にささげる御衣を織るための織機「棚機」を意味し、この日は技巧上達を祈念する日とされた。JSMEは理念である、学術技術の進歩と社会への貢献に通ずるものがあるとして、8月7日を機械の日と定めた。

子ども・学生向けイベント

JSMEは機械の日や機械週間を中心に、若者の理工系離れの回避や、女性を含めた次世代技術者の育成支援につながるような子ども・学生向けイベントを

参加者の宇宙工学・機械工学への興味関心を高めることを目的に「モデルロケット教室」が開かれた



産業の発展に貢献―機械技術

好評を得ているエンジンや、出張版としてモノづくり体験スタジアムでも開催する。23日には科学技術館(東京都千代田区)の展示イベント「モノづくりで行われる「モノづくり」体験スタジアム2025」(モノづくり日本会議、日刊工業新聞社主催)で、小学生を対象に「ロボットの基礎知識」が紹介される。エンジン塾はJSMEが21年に開始した小学生向けのプログラムで、1年を通じて、工作教室、工場・研究室などの見学、技術者による講演などを行っている。モノづくり体験スタジアムではエンジン塾の出張版として、タミヤのロボクラフトシリーズを製作する。また同日14時から、科学技術館の第1会議室で「2025年度機械遺産認定式」が行われる。機械遺産認定式はJSMEが07年に始めた認定制度。歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、主として機械技術に関する歴史的遺産を認定する。



好評を得ているエンジンや、出張版としてモノづくり体験スタジアムでも開催する。23日には科学技術館(東京都千代田区)の展示イベント「モノづくりで行われる「モノづくり」体験スタジアム2025」(モノづくり日本会議、日刊工業新聞社主催)で、小学生を対象に「ロボットの基礎知識」が紹介される。エンジン塾はJSMEが21年に開始した小学生向けのプログラムで、1年を通じて、工作教室、工場・研究室などの見学、技術者による講演などを行っている。モノづくり体験スタジアムではエンジン塾の出張版として、タミヤのロボクラフトシリーズを製作する。また同日14時から、科学技術館の第1会議室で「2025年度機械遺産認定式」が行われる。機械遺産認定式はJSMEが07年に始めた認定制度。歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、主として機械技術に関する歴史的遺産を認定する。

2025年度「機械遺産」認定企業

コロナ

国産初の加圧式石油ストーブSB型

コロナの前身である内田製作所は、1955年に国産初の「加圧式石油ストーブSB型」を開発した。燃料に圧縮空気を送り込んで気化させ、無煙・無臭の青い炎で燃焼する加圧式石油コンロの技術を石油ストーブへ応用した。燃料を完全燃焼させて臭気を残さないうに火力が強く、ハンドル一つで点火・消火・火力調整の操作ができ、かつ高い安全性を誇るのが特徴。また持ち運びも考慮したモダンなデザインを取り入れ、日本の暖房の認識を一変させた。これらの技術は現代の石油暖房機へ広く受け継がれ、わが国の生活文化の向上に貢献した。



日本機械学会 JSME

技術者の現場力を讃える―「優秀技術者表彰」

日本機械学会では2025年度より、法人会員(特別員)に所属する実務技術者の功績に光を当てる「優秀技術者表彰」を創設しました。

本表彰は、設計・製造・品質管理・保守保全・運転調整など、現場の最前線で活躍する技術者を対象とし、論文発表や学会活動によらずとも、機械工学の発展に顕著な貢献を果たした方々を称えるものです。

この表彰制度は、そうした実務技術者の努力と成果を「ブロンズ(実務経験5年以上)」「シルバー(同10年以上)」「ゴールド(同15年以上)」「プラチナ(同20年以上)」の4段階で評価し、社会へ発信していく新たな仕組みです。推薦は特別員からで、表彰された方には会長名による表彰状が贈られ、企業主催での表彰式も可能です。

貴社の技術者に、誇りとモチベーションを。「見える表彰」で、社内外への信頼とブランド力を高めましょう。

詳しくは、日本機械学会WEBサイトをご確認ください。



持続可能な未来を築くための日本機械学会の挑戦

日本機械学会は、持続可能な社会の実現に向けて、機械工学の知見を活かした取り組みを進めています。特に、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、人と機械の協調・連携の3つの分野で、学会横断的な活動を展開しています。

カーボンニュートラルへの貢献 >>>

学会横断テーマ「持続可能社会の実現に向けた技術開発と社会実装」

サーキュラーエコノミーの推進 >>>

学会横断テーマ「循環経済の実現に向けた機械工学の役割」

人と機械の協調・連携の進化 >>>

学会横断テーマ「機械と情報通信の融合で実現する人間中心の未来社会」

毎年9月の年次大会(全国大会)にて、上記テーマのフォーラムを開催しています。

<学会横断テーマフォーラムアーカイブ>
<https://www.jsme.or.jp/about/about-jsme/gakkaithe/>



これらの取り組みを通じて、日本機械学会は持続可能な社会の実現に向けた技術的課題の解決に挑戦し、未来を担う技術者の育成と社会貢献を果たしています。